



ももたろう

昔々、ある所におじいさんとおばあさんが住んでいました。ある日、おばあさんが川で洗濯をしていると…。どんぶらどんぶら、どんぶらこっこ。大きな桃が流れてきました。

「おやまあ、おいしそうな桃なこと！」

おばあさんは桃を拾って、家に帰りました。早速、おじいさんと一緒に桃を切ろうとすると…。ぱっかあん！

「オンギャー！」

なんと、元氣いっぱい赤ちゃんと飛び出しました。おじいさんとおばあさんは男の子に、「桃太郎」と名前を付けました。

何年かたち、強く優しく育った桃太郎。ある日、桃太郎は鬼が島へ行くことになりました。鬼が悪さをして、村の人たちを困らせていたからです。

桃太郎は、おばあさんに作ってもらったきび団子を持ち、出発しました。

「おじいさん、おばあさん、行ってきます！」

旅の途中で、犬に会いました。

「おいしそうな、きび団子だワン。一つくれたら、お供するワン。」

きび団子をもらった犬は、仲間になりました。

少し行くと、今度は猿に会いました。

「一つくれたら、お供するウツキー。」

きび団子をもらった猿も、仲間になりました。

そしてまた少し行くと、今度はきじに会いました。

「一つくれたら、お供するケーン。」

きび団子をもらったきじも、仲間になりました。桃太郎は、犬と猿ときじと一緒に船に乗って、鬼が島へ向かいます。

鬼が島に着くと、早速鬼が現れました。犬は鬼にかみ付き、猿は鬼を引っかき、きじは鬼をつつきます。そして桃太郎は刀を振って、えいやあ、そりやあ！鬼は、

「参った、参った。ごめんなさい。もう悪いことはしません。」と、謝りました。

桃太郎たちは、村の人たちの宝物を取り戻して、おじいさんとおばあさんの所に無事に帰りましたとき。

(おしまい)